

市民が思い描く、地域の将来

地域



まちづくり

ビジョン

全国的な問題である人口減少。本市も平成28年をピークに人口減少の局面に入りました。今後、地域の活力を維持、増進していくためには、より一層市民と行政が連携を深め、地域の個性を生かしたまちづくりを進めることが大切です。平成30年には、市内13地域において各地域のまちづくりを進める上での将来像をまとめた「地域まちづくりビジョン」を、地域の代表者自らが議論し、策定しました。現在、市内各地で進んでいるそれぞれの地域の魅力を生かした取り組みとともに、3つの地域で活躍する人たちのインタビューを紹介します。

市内13地域において「地域ビジョン会議」を設置



企画課 ☎537-5603 市民協働推進課 ☎537-7251



舞子浜リビング 代表 後藤 芳正さん



大在商工青年部 直前会長 田中 剛さん

【舞子浜緑地】大在土地区画整理事業による防風保安林の松林のほか、海水が流れる川や干潟があり、ベンチやあずまやなども設置されている。



※写真は過去に行ったイベントのものです。

地域で活躍する人たち【大在エリア】 舞子浜リビング



リビングのように
集える場所を目指し
大在の宝を
よみがえらせたい

近年、子育て世代が増え人口増加が見込まれる大在地区。その一方で、地域コミュニティの希薄化が問題視されています。そこで、地域の人のつながり、地域の魅力再生を目指し、大在地域振興計画検討会議において、地域のあるべき姿、未来像が話し合われました。その中で、大在エリアの宝である舞子浜緑地を楽しめる公園としてよみがえらせようという声上がり、平成30年にプロジェクトが動き始めました。

以前は、散歩や干潟鑑賞、松ぼっくり拾いなどで自然を楽しめ、親しまれる公園でしたが、緩衝緑地帯(都市計画による公害防止、またはコンビナート地帯などの災害防止を図ることを目的として設けられた緑地)のため、松林が茂った少し薄暗い場所となり、人々の足が遠のいていました。しかし、舞子浜の干潟には貴重な生物が生息し、素晴らしい自然が今でも残されています。

「大在の子どもたち、家族にとっての思い出の場所になるように」と、平成31年に第一回目のイベントを開催し、地元ファミリーを中心に約100人の参加者が集まりました。舞子浜の清掃活動の後お弁当を食べ、カヌー体験や自転車試乗会などを楽しみました。昨年開催された第二回目のイベントでは、新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながらカヌー体験はできませんでしたが「干潟の音楽会」と題したアコースティックライブが行われ、のんびりと心地よい空間に多くの参加者が癒されました。

「私たち主催者側も、参加者として家族と一緒にイベントを楽しんでいます。無理せず、細く長くイベントを継続して、少しでも多くの子どもたちが再び舞子浜で遊ぶ姿が見られるようになると嬉しいですね」と、代表の後藤芳正さんと、検討会メンバーの田中剛さん。今後は干潟の鑑賞テラスが改修予定で、パーベキュー施設として利用できるように協議中だそう。多くの可能性と魅力を秘めた自然が、再び地元の人たちの憩いの場「リビング」となり、地域を活性化する起爆剤となるでしょう。